

戦略1-3 子育てしたくなるまちづくり 《チーム1》 令和4年7月1日

テーマ：保育や教育の人材確保



■働き方改革

【具体的な取組】

○行政

- ・ユニフォームが素敵

○市民・事業者

- ・事業所でのキッズルーム等で受け入れていただき再就労につなげる
- ・正職員と非正規職員との壁が少ない
- ・評価制度に納得感がある
- ・英語の先生の派遣
- ・有給休暇が取りやすい
- ・昼食を楽しく食べられる
- ・働き方への多様性
- ・上司が仕事を分かりやすく指示する

■クレーム対応

○行政

- ・交渉術を身に着ける（保護者対応）
- ・クレーマー保護者には行政が対応する

○協働

- ・保育園への理解促進
- ・小中学校への理解促進
- ・保護者のクレーム対応

○市民・事業者

- ・苦情対応、相談援助技術のプロの配置
- ・先生方でのコミュニケーションがよく取れている
- ・保護者との関係性が良好

■潜在的保育士の活用

【具体的な取組】

○行政

- ・保育士試験不合格者の方を人材登録する

○協働

- ・潜在的保育士を掘り起こす催しをする。

○市民・事業者

- ・潜在的な人材（保育士免許保有者）の確保
- ・現場復帰のための支援

■潜在的教師の確保

【具体的な取組】

○協働

- ・先生と事業者のコラボ教育
- ・地域人材をもっと活用

○市民・事業者

- ・教職たまごプロジェクト（シニア版）
- ・教職たまごプロジェクトの拡大
- ・地域人材をもっと活用
- ・先生と事業者とのコラボ教育

■その他

【具体的な取組】

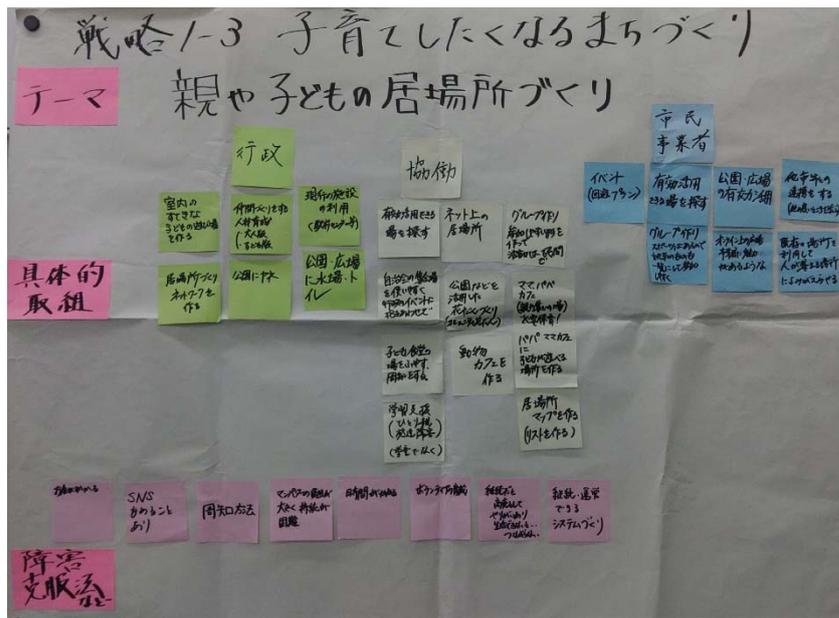
○行政

- ・処遇改善
- ・教師のしごとの魅力発信

○市民・事業者

- ・園の予算などがオープンになっている

テーマ：親や子どもの居場所づくり



【具体的な取組】

- 行政
 - ・室内の素敵な子どもの遊び場を作る
 - ・居場所づくりネットワークを作る
 - ・仲間づくりをする人材育成（大人版・子ども版）
 - ・公園に屋根
 - ・現行の施設の利用（駅前センター等）
 - ・公園・広場に水場・トイレ
- 協働
 - ・有効活用できる場を探す
 - ・行政のイベントに抱き合わせできるように自治会の集会場を使いやすくする
 - ・子ども食堂の場を増やす、周知する
 - ・学童保育でない学習支援（ひとり親・発達障害）
 - ・ネット上の居場所づくり
 - ・公園などを活用した花壇づくり（コミュニティ花壇）
 - ・動物カフェを作る
 - ・グループづくり（参加しやすい形を作って活動は民間で）
 - ・ママ・パパカフェ（親の集いの場）に子どもが遊べる場所を作る（要保育）
 - ・居場所マップ（リスト）を作る

○市民・事業者

- ・イベント（回遊プラン）
- ・有効活用できる場を探す
- ・グループ作り（スポーツはあるので文科系のもの一覧にして参加しやすく）
 - ・公園・広場の有効活用
 - ・事業者の魅力があるようなオンライン上の広場
 - ・他市等との連携をする（ほかの良いところを学ぶ）
 - ・既存の場所を利用して人が集まる場所によみがえらせる

【障害・克服法など】

- ・お金がかかる
- ・SNSはもめることがある
- ・周知方法
- ・マンパワーの負担が大きく持続が困難
- ・時間がかかる
- ・ボランティアの育成
- ・継続だと商売としてやりがいがあるが、生活できないとつながらない
- ・継続・運営できるシステムづくり

テーマ：市民のコミュニティ意識の醸成



■人と人をつなげる場の提供

【具体的な取組】

- 行政
 - ・きっかけ作り
 - ・出会いの場作る
- 市民・事業者
 - ・若い世代向けの行事をやる
 - ・一緒に行事の準備して交流が生まれる

■地域の魅力づくりをする

【具体的な取組】

- 行政
 - ・シンボルを作る
- 協働
 - ・中心の人を作る
 - ・子育て時代に一緒だった人とのつながりを生かす
- 市民・事業者
 - ・市民コミュニティ意識のシンボルを決める
 - ・キラキラメモリー（地域での思い出）作る
 - ・長期のビジョン

■地域の人・企業がつながる

【具体的な取組】

- 行政
 - ・作業工程を一緒にやる
 - ・防災は関心高く、一緒に取り組みやすい

・地域の社会福祉法人など企業・法人にも協力をもらう

- 市民・自業者
 - ・地域コミュニティに事業者を巻き込む
 - ・地区社協などボランティア参加している人は意識高い

■行事・ボランティアなどに参加し、共通の体験・共感を得る

【具体的な取組】

- 協働
 - ・子ども・孫を通じて行事に参加
 - ・市民大学校の子ども版
 - ・子育て時代に一緒だった人とのつながりを生かす
- 市民・事業者
 - ・地区での清掃活動（自主的なもの）
 - ・今までやっていないことに取り組む（行事）
 - ・楽しい、面白い、参加できるものをつくる
 - ・参加しやすい活動が身近にある
 - ・子ども食堂（子どもが一緒だと参加しやすい）
 - ・ボランティアに参加する
 - ・おまつり（夏祭り）をやる
 - ・キラキラメモリー（地域での思い出）作る

■障害・克服法など

○行政

- ・市の担当者がよく変わる
- ・支援に頼りすぎる
- ・知っている人から声をかけてもらう
- ・会・団体としての意見が欲しい

○協働

- ・人間関係

○市民・事業者

- ・自治会活動で困っている声が上がってこない
- ・「会」としての声ではなく、一人ひとりの声としてしか把握できないのは困る
- ・人間関係が煩わしい人もいる
- ・甘えることができない
- ・若い世代の市民参加
- ・働き盛り世代は地域に参加できない・しづらい（仕事のため）
- ・「おやじ」が参加できる場が少ない

テーマ：地域での健康づくり



【具体的な取組】

○行政

- 健康づくりのための公園の活用
- めぐる名所ポイントを作る
- 行政財産の有効活用
- 活動団体のネットワークを作る
- 病気にならないための呼びかけをする

(検診時など)

- 広場公園の芝化→活用方法が広がる

○協働

- 送迎の誘い合いを行う
- 犬の散歩などを一緒にやるようにする
- 犬のレンタル、散歩の請負
- キーマンは女性（子どものいる女性が中心で高齢者につながる）
- 情報交換会を企画する
- 頑張りを認めてもらうための仕組み
- 名所めぐり（七福神めぐり、神社めぐり）に誘い合う
- スポーツ団体の体験会（合同）を行う

○市民・事業者

- イベントや内容を周知する方法
- 北総ウォーク
- 犬の散歩ができなくなった方の支援で代わりに散歩に行くことで歩く機会とし健康につなげる
- チームでのウォーキングに参加してポイントをゲットする

- マラソンから駅伝へ

- チーム対抗にすれば交流できる
- 子ども向け・ファミリー向け教室を開く
- 男性向けの教室を作る
- 男性の高齢者は体操が嫌い（マシンは良いけど集団は苦手）
- イベントに参加したらポカリスエットなどもらえる
- イベントにして参加者が参加証をもらえるようにする
- スタンプラリーにして1か月で○箇所行ったらご褒美がもらえる
- コークオンなどをみんなで活用して仲間づくりにつなげる

【障害・克服法など】

- 既存の仲間に入るのが大変
- 継続するのが困難
- チームスポーツよりも個人スポーツ
- 男性はコミュニティに入るのが苦手
- 共通のツールがあれば男性でもつながれる
- ターゲットごとに周知の媒体を変える（74歳以下はネット、75歳以上は紙面）
- 見える化・記録化することで気持ちの維持・継続